

平成23年度 土木技術職員 専門研修 報告書

- 1 日 時：平成23年6月3日（金）13:00～14:30
- 2 場 所：（財）滋賀県建設技術センター 2F 研修室
- 3 出席者：滋賀県職員 38名 市町職員 7名
- 4 講 師：神戸防災技術者の会（元神戸市職員）、NPOメンバー
京都市建設局管理検査課長、NPOメンバー
（陪席）NPO法人都市災害に備える技術者の会
- 5 資 料：（1）平成23年度 土木技術職員 専門研修
【技術管理（災害復旧）講座】 日程

6 研修内容

資料（1）に示す如く、この出前講義は終日行われた研修の内の一部として行われた。

- I部 演 題：『巨大災害発生・・・その時の自治体職員は
～阪神・淡路そして東日本大震災で学んだこと～』

講 師：

時 間：13:00～14:00

内 容：①はじめに

- ②「阪神・淡路大震災」そして「東日本大震災」の被災地は
- ③「出勤」か「救出」か
- ④その時の「業務」は
- ⑤「被災した街の「復興」は」
- ⑥事前の備えを

阪神・淡路大震災の時の被害状況、被災時の市民の生活、復興の過程などをパワーポイントを使い説明した。

海溝型の東日本大震災と内陸型の阪神との被害内容の相違点を比較しながら、滋賀県を襲う内陸型への対応の観点なども説明するとともに、自助・共助・公助による事前の備えによる減災の大切さへの理解を求めた。

また、発災直後の職員の業務は土木関係の復旧・復興業務とともに被災市民の当面の生活確保に取り組む事も大切で、多面的な展開が出来るよう通常から市民と一緒に取り組む姿勢が求められている。そして復興における2段階都市計画の実績の中で日頃のまちづくりの大切さを学んだ事を報告した。

そしてそのために公助で出来る事に限界を知り、遊び心を持って自助・共助を支援する公助によるコミュニティづくりに努めて頂きたいとお願いした。



講演の様子

Ⅱ部 演 題：『明日にかける橋 皆さんに期待すること』

講 師：

時 間：14：00～14：30

内 容：①防災・減災への誘い

②きっかけづくりのヒント

③防災つながりで輪を広げる

④リスクマネジメントと危機管理

- ・ なぜ人はリスクや危機に無頓着なのか
- ・ 正常化の偏見
- ・ 認知的不協和
- ・ 解決のためのヒント

⑤レジリエントな個人と組織

受講者は、講師の柔らかい語り掛け調のお話と、パワーポイントを交えた分かり易い説明に同じ公務員技術者として聞き入っていた。時には会場に質問を出すなどして気を引き、居眠りするものもなく、熱心にメモを取っていた様子が印象的であった。

前半は、阪神・淡路大震災発災を契機に、近年大きな災害が起こっていない京都市においても、「いざ」という時のための備えが必要との意識改革から、技術系の市職員の間で自発的な「自己研鑽」、「自己実現」の場である防災・減災のWGが平成21年度に立ち上がったことの紹介があり、最後に「一緒に学びませんか」と呼びかけた。

後半では、リスクマネジメントに関する説明があり、人間の心理として「正常化の偏見」（自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性）や「認知的不協和音」（例：試験が近づき勉強をしなければならないことは分かっているが、勉強せずに、普段しない部屋の掃除をす

るなど。)がある事を説明し、その解決のためのヒント(率先避難民など)について解説した。



講演の様子



メモを取る受講生